

## 9. 教育研究開発委員会

大滝 純司（委員長・東京医科大学医学教育講座）

当委員会の前身である医学教育研究開発小委員会も含め、2006年～2009年の委員と活動を以下に列挙する。

### 1) 15期（2006年1月～2008年12月）医学教育研究開発小委員会

委員：大西弘高（委員長）、志村俊郎（副委員長）、石川ひろの、小田康友、杉本なおみ、森本剛、守屋利佳、吉田素文、渡邊淳

#### (1) 委員会メンバーによる研究プロジェクト

心理学実験のデザインを用いた研究を実施することにより、医学教育の様々な問題点を明確化した。研究の成果を委員会報告「医学教育領域におけるランダム化比較試験の実施上の課題」にまとめ「医学教育」誌に投稿し、掲載された。

#### (2) 医学教育研究技法ワークショップ

ワークショップを年に1回開催し、上記の研究プロジェクトで得られた研究のノウハウを共有した。

第2回：2006年10月14日・15日（東京大学）

第3回：2007年11月10日・11日（九州大学）

第4回：2008年10月30日・31日（東京大学）

### (3) 医学教育研究倫理指針

医学教育研究に関する倫理的問題について検討し、「医学教育倫理指針（案）」を理事会に提出した。

### 2) 16期（2006年1月～）教育研究開発委員会

委員：大滝純司（委員長）、錦織宏、石川ひろの、尾原晴雄、高屋敷明由美、向原圭、伊藤俊之、平山陽示

#### (1) 医学教育研究メンタリングプログラム

医学教育研究に関心のある当学会の会員（メンテーター）が、医学教育研究に精通した他施設の学会員（メンター）と一対一で研究テーマ、研究方法などについての個人的に直接相談する機会を提供する目的で、メンターとメンテーターを募集し大会会場などで面談するプロジェクトを開始した。

#### (2) 医学教育研究ワークショップ

前期に引き続いてワークショップを開催した。

第5回：2010年10月8日・9日（東京大学）

### (3) 医学教育研究倫理指針

前期の委員会で提出された「医学教育倫理指針（案）」について理事会からの指示により検討を加え、一部を加筆して理事会に提出した。

## 10. 大学院教育委員会

井内 康輝（委員長・広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学）

日本医学教育学会では、これまでも日本の医学系大学院のあり方を検討してきた（第39回日本医学教育学会シンポジウム“日本の医学系大学院はこれでいいのか”）。その結果、臨床系大学院は研究者養成大学院とは別に、専門職大学院として設置し、後者は定員を縮小してここへの進学者には大胆な経済的支援を行うなど優遇して、基礎医

学を中心とした医学・医療の研究の振興をはかる、ことなどを主張してきた（医学教育39：317, 2008）。その後、こうした考えをすすめるために、大学院教育委員会を立ち上げ、医学系大学院の存在意義とくに学位取得と専門医制度の整合性、日本の医学研究の現状の把握、とくに欧米における医学研究との比較、などについて議論することを